

### 3. 視察報告

6月26日(水)

#### 【出発】

朝6時10分に名鉄改札前に集合し、中部国際空港へ向かう。

10時30分に離陸し約10時間のフライトを経て、現地時間午後2時に北欧のハブ空港であるヘルシンキに到着。大きなターミナル内を移動し、乗り換えの後、現地時間午後6時にはリトアニアの首都、ヴィリニウス空港へ到着した。

当日は、夕方着であったため、そのままホテルへの移動となり、長い1日を終えた。



<ヘルシンキ空港にて>

6月27日(木)

#### 【農業副大臣表敬】

朝8時10分にホテルを出発し、農業省へ向かう。

農業省では、来豊したことがある農業副大臣へ表敬を行い、農業分野での交流や協力の可能性などを話し合った。

リトアニアは畜産、酪農、オーガニック、はちみつ加工など様々な農業が盛んであるとのこと。日本はリトアニアにとって重要なパートナーであり、お互いの連携によるメリットなどについて、1時間を超えるほど熱心に話し合った。



<農業省副大臣表敬>

### 【パラリンピック会長表敬】



<パラリンピック会長表敬>

次に、ヴィリニユス市内の障がい者雇用によるカフェへ向かい、そこでパラリンピック会長の表敬を行った。ここのカフェはパンケーキが大変おいしいということで、パンケーキをいただいた。すべてのパンケーキが一口サイズに揃えられており、甘さも控えめで日本人の口にも合うと感じた。

パラリンピック会長からは、今年4月に行った豊橋でのゴールボールのトレーニングキャンプについて

高い評価をいただき、良い思い出となったと感想をいただいた。今後は、可能であれば他の競技団体についても豊橋市で同様のキャンプを行えればとのことで、オリパラ開催に向けて一層の連携の深まりを確信することができた。

### 【銘板披露・協定締結式】

午後からは、パネヴェジス市へ移動し、パネヴェジス市の都市計画のご担当から市勢についてプレゼンを受けた。パネヴェジス市は、ヨーロッパ中を回れるような地理的位置にあること、鉄道網や空港にも恵まれていること、カウナス工科大学のロボティクスセンターがあることなど、本市とも通ずるような市の特徴を説明いただいた。

その後は、パートナーシティとなる豊橋市の銘板の披露式、協定締結式を行った。協定締結式では、伝統楽器であるカンクレス（小さな琴）による美しい演奏



<協定締結式 カンクレスの演奏>

から始まり、その音色は両市のこれからの交流を予感させるものであった。また、協定締結式には、本市からの友好親善市民訪問団も参加した。

夕方からは、パネヴェジス市主催による夕食会に友好訪問団、市民訪問団の両団が招待され、両市の行政職員、議員、市民がそれぞれ母国の合唱を披露するなど、交流の雰囲気盛り上げた。

6月28日(金)

### 【VYTURIO 中学校】

朝8時50分、パネヴェジス市のバスにより、市内の中学校へ向かう。この中学校はリトアニアの中でも優良校として教育科学省に認定されている学校であり、本市が今年10月に予定している中学生海外派遣の交流先中学でもある。関連項目を総合的に学習する複合授業に取り組んだり、その他、先進的な取り組みは今後の交流を大いに期待させるものであった。



<VYTURIO 中学校にて>

### 【ピエノ・ジュバイズデス】

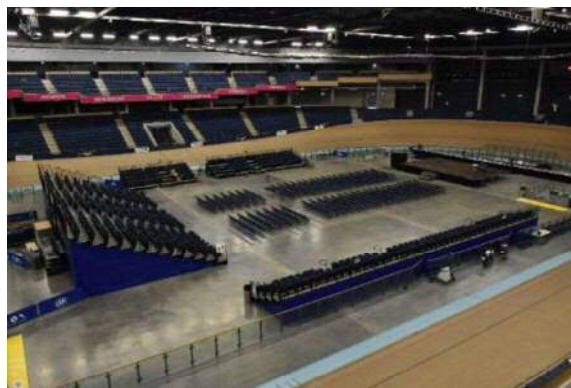


<ピエノ・ジュバイズデスにて>

10時からは、リトアニアの主要な産業のひとつである乳製品工場を訪問。ヨーロッパでもっとも売れている牛乳を作っている企業である、ピエノ・ジュバイズデスでは、工場内の視察や、アイス、フレーバー牛乳、カッテージチーズなど様々な製品を試食させていただき、その種類の豊富さと味わい深さに驚嘆した。

### 【CIDO アリーナ】

その後は、CIDO アリーナへ移動、充実した設備と規模は圧倒されるものであった。このアリーナは、自転車競技のバンクやバスケットコートなどを備え、スポーツだけでなく、コンサートや展示会など大いに利用されているとのことで、年間稼働日が320日程度と市民に親しまれ、育まれていることを感じた。

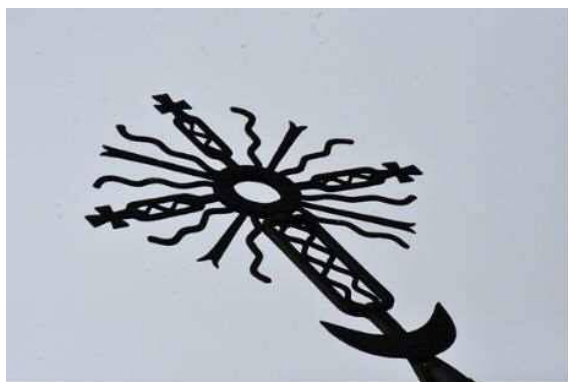


<CIDOアリーナ>

その他、今回、パートナーシティ協定の締結式で、記念品としてリタス・ミコラス・ラスカウスカス市長からいただいたガラスのオブジェを作成した、市内のガラス工房の見学や、リトアニアの文化として根付いている人形劇場を視察させていただき、大変充実した1日となった。

6月29日(土)

【パネヴェジス・アニークシチェイ市】



<太陽を模した十字架>

朝9時より、パネヴェジス市職員のご案内により、市内教会などを見学させていただく。リトアニア国民の多くはカトリック信徒とのことだが、リトアニアでカトリックを布教する際、土着の太陽信仰などと上手く融合させることでその布教が図られたとのこと。また、ソビエト連邦に編入され、その後独立を勝ち取った歴史などを学ぶことができた。

パネヴェジス市だけでなく、リトアニアの各市内では様々な施設、建物がリトアニア国旗を掲揚しており、国家としての誇りを感じることができた。

市内見学後は、アニークシチェイ市へ移動し、民族誌馬博物館を見学させていただく。リトアニア国民は、大変に馬を身近に感じているとのことで、馬と共に歩んできたリトアニアの歴史を知ることができた。日本リトアニア交流センターの玉木代表理事が言うには、リトアニアの方を熊本に招いた際、馬刺しをお出ししたが、リトアニアの方は抵抗をしめされたとのことで、馬を大切にする国民性を実感した。



<ライ麦パンの成形>

また、この博物館ではライ麦パン作りを体験させていただいた。ライ麦パンはリトアニア国民の主食として、また神からの贈り物として大切に扱われており、パンを形作る際、まずパンの表面に十字を切って神に感謝することからはじめるとのことで、生活の中にまで信仰が息づいていることを知ることができた。

6月30日(日)

【カウナス・ヴィリニュス市】

この日は、パネヴェジス市の送迎により明日の帰国に向けて空港のあるヴィリニュスへ向かう。ここで、市長とは別行動となり、我々はリトアニアで継続して滞在、市長はドイツでの用務のため別れることとなった。

ヴィリニュスに向かう途中、ユダヤ人に対して命のビザを発行したことで有名な杉原千畝の記念館などを見学し、リトアニアの歴史や文化を垣間見ることができた。午後にはヴィリニュス市内に到着しホテルへチェックインする。ここまでの全ての行程をコーディネートし、また送迎を行ってくれたパネヴェジス市の職員の皆さんとはここでお別れとなった。

早朝から夜遅くまで、我々訪問団のために大変手厚いおもてなしをいただいたことに心から感謝したい。



<杉原千畝記念館>

7月1日(月)

【帰国】



<豊橋駅にて>

午前11時30分に空港へ移動、ヴィリニュス空港を午後1時40分にヘルシンキに向けて出発。ヘルシンキには3時半頃には到着し、中部国際空港へ向けて予定通り飛び立った。

日本時間の7月2日午前9時頃に中部国際空港へ到着。名鉄に乗り換えて、11時7分に豊橋駅に到着した。

## 「リトアニア・パネヴェジス市 豊橋市友好訪問団」派遣報告書

豊橋市議会議員 山田 静雄

### 【6月26日 豊橋出発】

午前6時10分豊橋駅に集合し、佐原豊橋市長を団長としたリトアニア・パネヴェジス市豊橋市友好訪問団総勢10名でリトアニアへ出発する。セントレア空港午前10時30分発のフィンランド航空でヘルシンキへ行き、乗り換えてリトアニアに着く。6



<出発前豊橋駅にて>

時間の時差があるなかで、6月26日午後6時過ぎに首都ヴィリニユス市に到着し、この日は何もなくてホテル宿泊となる。

### 【6月27日 ヴィリニユス～パネヴェジス市へ】



<障がい者雇用カフェにて>

午前8時10分に、パネヴェジス市職員ヴィルマさんと農業省・農業副大臣を表敬訪問し、その後障がい者雇用に力を入れているカフェで、リトアニアパラリンピック委員会会長及び役員と会談する。豊橋でのゴールボールのトレーニングキャンプについて高

く評価いただき、今後、他の競技団体の派遣についても議論を行った。昼食後ヴィリニユス市から今回の目的地であるパネヴェジス市に移動する。パネヴェジス市はリトアニアの中で5番目の人口約10万人を擁

する都市であるが、公園が多いのと古いビルが多いことで、ヴィリニユスに比べ都会という感じはしなかった。今日宿泊するホテルのチェックインを済ませた後、パネヴェジス市役所を訪問しリタス・ミコラス・ラクカウスカス市長、山崎リトアニア特命全権大使と会う。会談後、パートナーシティ協定締結を記念した銘板お披露目式を市役所一階玄関で行うが、パネヴェジス市議会議員・職員・市民にも参加していただき有意義なお披露目式となった。場所をロマンティックホテルに移し、今回訪問団の最大のイベントである協定締結式・夕食会が行われた。ここでとよはし友好親善市民訪問団22名と合流し、夕食会では交流に向けた豊橋市の盛り上がりを見せると共に、豊橋市歌や日本の歌謡曲を参加している皆さんに聞いていただいた。また、パネヴェジス市長・副市長を始め、議員や職員の皆さんからもリトアニアの伝統歌を披露いただき、大いに語らいながら夜が更けていった。

【6月28日 パネヴェジス市視察】

午前8時50分に、パネヴェジス市職員ヴィルマさんと



＜パネヴェジス市の皆さんの合唱＞

市内を視察しながら、教育施設の中学校を訪問する。もうすでに夏休みに入っており生徒はおらず、校長先生他10名ほどの先生が対応してくれる。生徒732人に対して先生は70名。女性教師が多いそうで、若い先生は英語も話せるようだった。1学級は30人程らしく、生徒の個々に応じたカリキュラムを組み、その先の進路についても相談に乗っているようであった。特に素晴らしいと感じたのは図書室のあり様で、



<図書室の様子>

本を借りた生徒は読んだ本の感想文を提出し、絵によっても表現をしているらしい。また自分が購入した本で不必要になったものは図書室でみんなに提供している。本を通して生徒みんなの心を共有しているように見えた。

次に訪れたのはプロバスケット

ボールチームのオーナー企業でもある乳製品工場。リトアニアに4工場を有し、国内では大企業といえる。工場内を見たところロボットを活用して製品化しているわけではなく、箱詰めは人の力を必要としている。ここの会議室で、今年3月「ええじゃないかとよはし映画祭」に出品されたいろいろな乳製品を試食させてもらうが、結構美味しく豊橋でも売れるのではないかと思った。次の視察先、C I D Oアリーナは自転車競技が出来る250mバンクを常設する珍しいアリーナで、センターコートはプロバスケットボールなどの競技が行われる素晴らしいアリーナである。私たちが訪問しているときも10人程の人が自転車競技の練習をしていた。年間320日使用しているらしく、年間スポンサー企業には特別観覧席が用意されている。昼食後、文化施設のガラス工房と人形劇場を視察し、様々な文化が地域に根差し、発展していることを感じる事が出来た。



<人形劇場の若きパペッティアと共に>



【6月29日 パネヴェジス～アニークシチェイ市視察】



＜焼きあがったライ麦パン＞

土曜日で官庁関係は訪問できず、文化施設を視察する。昔の建物や生活状態を再現している民族誌馬博物館では、この地方の特産であるライ麦を使ったパン作りを体験する。ライ麦パンは神からの贈り物として生活と信仰に根付いていることを教わった。この国の生活

の中で大変重要なものであるが、我々日本人には食べてみてもちょっと硬くて重さのあるパンでなかなか美味しいとは言いづらいものだった。そのあと、森林の中の30メートル程の高さのある歩道を歩き、森林浴を味わう。そして、現在も使われている狭軌道がある鉄道博物館を訪れる。夕食はパネヴェジス市の副市長2名と会談を含め会食をする。その中で私からは、公園が多くあり大木となった木も多くあるが公園整備はどのようにしているか聞いてみた。市民は親しみ馴染んでいる公園なので、枯れ葉などの清掃関係で苦情が来ることは無いし、市としても委託して見守りはしているとのことだった。また、日本では高齢化が進み地域での見守りをどの様にしていこうか思案検討中だが、パネヴェジス市では高齢化の問題はないのか聞いてみた。現状ではそれほどないが、今後の検討課題には入ってくるものであり、また社会保険制度が整っていないので難しい問題でもある。とのことであった。

【6月30日 カウナス～ヴィリニュス市へ】

この日からは市長とは別行動となり、私たち市議団はカウナス市内の杉原千畝記念館を訪れる。この小さな旧領事館に何百人もの人がビザの申請に来て、杉浦千畝が数日間で対応したことは同じ日本人として凄い偉業を成し遂げたと誇りに思うし、こうした先人の努力が今日までの日本とリトアニアとの繋がりとなっていると感じた。私たちが居る間でも

2組5人の日本人がこの記念館を訪れていた。

その後はトゥラカイ市の湖上に浮かぶ古城を見学に行ったが、この日はとても暑い一日で涼みに来た人も多く、また移動の途中での立ち寄りのため十分に古城を見学することができなかった。ヴィリニユスのホテルにチェックインした後は、夕食までに時間があつたため市議団で近くの大聖堂とゲディミナス城を見学する。リトアニアの首都だけあり、歴史と文化の薫る街並みであった。

#### 【7月1日 ヴィリニユス市～帰国】

実際にはこの日がリトアニア最後の日となる。午前中少し市内を散策し、飛行場へ向かう。ヴィリニユスから午後1時40分発でヘルシンキ空港へ、そこから乗り継ぎ午後5時25分発セントレア空港行きに搭乗する。2日の午前8時45分にセントレア空港に無事到着し今回の旅程を終えた。

## リトアニア・パネヴェジス市 豊橋市友好訪問団に参加して

豊橋市議会議員 向坂 秀之

### 【6月26日リトアニアに向け出発】

リトアニアはバルト三国の1番南に位置する、旧ソ連の構成国の1つで国土の33%が森林で四季はあるが冬が比較的長く、夏の平均気温は22度で公用語はリトアニア語、宗教は国民の大半がローマカトリック、時差7時間ではあるがサマータイム時は6時間、また、治安は悪くない。

セントレアからリトアニアのヴィリニウス空港までフィンランドのヘルシンキで乗り換え含めて11時間45分と大変長時間で疲れました。リトアニアの首都ヴィリニウスに着いたのが現地時間18時5分で日本ならば夕方というところですが、現



地は夏の間白夜の為、夜中の12時ごろまで昼間のような明るさだそうです。

翌日、農業省ヘグリチュナス農業副大臣を表敬訪問し懇談。比較的温かな気候と肥沃な土壌に恵まれ農業が発達しているが酪農と畜産が農業生産の7割を占めており、チーズ・乳製品を多く生産しているため日本にも輸出ができればと考えており日本の国内事情も考慮しながら働きかけていきたいとのことでした。

その後パラリンピック委員会のミンドウガス・ビリウス会長を表敬訪問。障がい者雇用により運営されているC a f é を尋ね、視察と共に懇談、空きビルの一室をちょっと飾り付けした店舗で、現地で一般的に食べる、おやつのような3～4cm位のパンケーキを頂きました。

次に、ヴィリニウスから130kmほど離れたパネヴェジスに移動、パネヴェジス市はリトアニア共和国の中で5番目の都市で人口約10万

人。

今回、パートナーシティ協定締結先のパネヴェジス市リタス・ミコラス・ラクカウスカス市長を山崎リトアニア特命全権大使と共に表敬訪問、パートナーシティ協定を記念した銘板お披露目式後、ロマンティックホテルに場所を移して市民訪問団と合流し協定締



<豊橋市の銘板の前にて>

結式へ参加、その後、会場を移して懇親会が、パネヴェジス市側から市長・副市長・市議会議員、そして日本側から山崎特命全権大使・市民訪問団・私達と総勢50名ほどで情報交換など、和気あいあいとした雰囲気の中で行われました。

翌日は、日本から子供たちが伺う予定にしている、ビュトゥリオ中学校を視察しました。



<中学校の教室の様子>

この中学校はリトアニアの中でも10校ほどある優秀校として認定されており、生徒も集まりやすく先進的な教育にも取り組んでいるとのこと。1クラス30人、また、14才になるとこの学校に残るか専門学校に行くかを選択するそうです。特に興味深く感じた

取り組みとして、「16人でサークルを組み研究課題への取り組み」「9月のはじめの週にキャンプに行き夏休み中で経験した話をする」「自分のやりたい事などのプレゼンテーションを皆さんの前でする」「優秀なプレゼンをした人は年一度発表」「校長先生とのお茶飲み会、その中で自

由な意見交換」「クリスマスには地域の人達との交流」「図書室に力を入れており、本を読んだ感想文の提出」「年代に合わせた性教育」などがありました。

他に、ボランティア活動を通して地域の人たちと交流し地域の状況の理解しつつ、自分の意見・考え方を述べる力の醸成など主張できる力を付けることを進めているとのことで、こういう力をつける教育を本市でも増やしていくことが必要ではないかと思います。

#### 【プロバスケットボールチームのオーナー企業の乳製品工場視察】

ヴィリニユスからパネヴェジスまで130kmの区間ほとんど道の左右が牧草地で乳牛牧場が広がり、チーズを中心に多くの乳製品を生産、その日に運び込まれた牛乳だけを加工しており、全自動ではなく人の手で箱詰など忙しく動き回っていました。

#### 【バスケットボール施設・シドアリーナ】

アリーナの中に250mの競輪場があり、その中心でバスケットボールなどのスポーツができます。パネヴェジス市にはリトアニアで1番の自転車競技選手がおり、バスケットボール2017第2位のチームもあるなどスポーツが盛んなところです。



<ユーロバスケット開催時の写真>

他都市からの交通・利便性の良さから、スポーツ、イベントなどで、年間320日ほど利用されているそうで、他に対象になる施設も少なく高利用率で利用されています。

リトアニアとは1939年に外交関係を有し、途中ソ連併合を経て1990年に独立、ほぼ同時に外交関係を開設しました。ソ連併合時代痛めつけられた事、カウナス領事館で杉原千畝領事がユダヤ系避難民に日本通過ビザを発給した事などから日本人には大変好意的です。食べ物については味付けなどが日本の味に近く、美味しくいただきました。街並みについては昔ながらの建物が残っており、たくさん教会が立ち並び中世の面影が色濃く残る街、道幅も広く綺麗、公園も沢山あり環境的に大変魅力がある所です。でも、よく見るとビルごと空いていたり、また歯抜けのように空き室があり人口減少と所得の低さからくるのか分かりませんが、これから伸びる要素がある地域ではないかと感じました。



<リトアニアの古い町並み>

## 「リトアニア・パネヴェジス市 豊橋市友好訪問団」に参加して

豊橋市議会議員 沢田 都史子

ホストタウン相手国であるリトアニアのパネヴェジス市とパートナーシティ協定を締結した瞬間に立ち合わせていただいたことに、改めて感謝申し上げます。パートナーシップとしての農業・スポーツ・教育交流についてご報告申し上げます。

### 【農業副大臣を表敬】

副大臣は、すでに豊橋へ来られており、ミニトマト農家を訪問されたことを懐かしく話され、農業交流とスポーツ交流について語っていただきました。

#### ○農業交流について

日本とリトアニアが、農業のパートナーとして交流を深めていきたいとの強い意志を伺いました。副大臣は「市と市の交流は重要である。個のレベルの交流も重要だと信じている。日本とリトアニアは、食文化が同じである。今後、技術交流を  
図れないか」との考えも示していただき、将来ビジョンも含め熱く語っていただきました。



<農業省副大臣表敬>

#### ○スポーツ交流について

パラリンピックチームは、よいコンディションであれば、いい結果につながると思っている。リトアニアから、豊橋へ派遣するにあたり、サポートをいただけるとありがたいとの、お言葉もありました。

「リトアニア人として、あらゆる方面での交流をお願いしたい。」とも述べられパートナーシップとしての期待を強く感じる表敬となりました。

### 【中学校視察】

リトアニアの中でも優良校として教育科学省に認められている学校を訪問しました。学校では、新たな将来をつくるためのビジョン10項目を掲げ、個人のレベルにあった質の高い教育をされていることに感銘を受けました。そのため、教師もベテランを集めていると



＜中学校での先生方によるプレゼン＞

のことでした。豊橋の生徒も交流でこの秋に訪問するとお聞きしました。生徒同士の交流に期待が膨らむ学校の教育方針でした。きっと豊橋の子どもたちも刺激を受けてくることでしょう。

### 【今後の交流について】

リトアニア・パネヴェジス市が、豊橋との交流に期待されている今、市民同士の直接交流の機会をつくっていくことが重要だと痛感しました。今後、市民の皆さまにも喜んでいただける交流の在り方を考えていく必要があると思いました。また、リトアニアのパネヴェジス市とのパートナーシティ協定の締結式に参加させていただき、議員の代表として、今後リトアニアとの交流に一翼を担っていけたらと決意をさせていただきました。そして、SDGsに取り組む豊橋として、世界に目を向けた取り組みに、一層力をいれていかなければと固く誓う訪問となりました。ありがとうございました。



「リトアニア・パネヴェジス市豊橋市友好訪問団」に参加して

豊橋市議会議員 廣田 勉

今回リトアニア、特にパートナーシティ協定を締結することに至ったパネヴェジス市を中心に訪問し、普段なかなか経験することができない貴重な機会をいただけたことに感謝申し上げるとともに、そこで得たもの、感じたことを述べさせていただきたいと思う。

#### 【リトアニアという国】

リトアニアという国についてどういう国か、と聞かれてどれだけの人が答えることができるであろうか。国の西側がバルト海に面するいわゆるバルト三国の一つであるリトアニアは人口約300万人、1990年にソビエト連邦から独立した後、欧州への復帰を目指し2004年5月にEUに加盟した。現在ではEU加盟国の中でも成長率が著しい国の一つと言われている。日本のおよそ6分の1の国土を有し、その主な産業として、石油精製や食品加工、木材加工など製造業があげられる。一方国土の98%が農地と森林に覆われており、古来から畜産や農業が盛んであり、豊かな農業国でもあることがうかがえる。

農業省を表敬し、農業副大臣との意見交換の機会をいただいたが、リトアニアは日本と食文化が似ており、日本人にとって味覚が近く、受け入れやすいのではないかということだったが、このことは滞在時の食事からも感じ取ることができた。ジャガイモや豚肉、乳製品はリトアニアの主要食材といわれ、大麦やライ麦なども有名だが、輸出について安くクオリティの高い加工牛肉の輸出を検討しており、最近では冷凍パンを東京ディズニーランドでも扱ってもらっているとのことだった。



< 農業省副大臣表敬 >

またリトアニアのICT産業は驚くほどの勢いで成長しているとい

われ、近年、テクノロジー企業や技術的な専門性を必要とするその他の企業にとって魅力的な国となっている。農業や畜産においても、今やICT化は時代の主流となりつつあり、大学でも研究が行われている。バイオテクノロジーについても興味をもって話されるなど、ICTの分野における自信と積極的に取り組む姿勢がとても印象的だった。

### 【パネヴェジス市という都市】

今回、パートナーシティ協定を締結したパネヴェジス市は、リトアニアの中部に位置し、人口約10万人のリトアニア第5の都市といわれている。どこか田舎町にきたかのような居心地のよい、のんびりとした印象のあるパネヴェジス市の市役所に表敬し、都市



＜パネヴェジス市のプレゼンの様子＞  
計画の担当者から概要を伺った。意外だったのは特に製造業が盛んであったこと、中でも製鉄、自動車部品、木工製品、プラスチック製品、電子部品はパネヴェジス市における5大産業ともいわれている。高速道路や空港の近くに位置し、地理的条件に恵まれていることから企業誘致にも積極的に取り組んでおり、特に主要都市には経済特区を設置しており、パネヴェジス市でも創業から6年間法人税免除をはじめ、配当金や固定資産税の免除を行うなど、様々な特典を駆使し、外国投資を積極的に誘致しているのが、印象的だった。その一方でリトアニアの給与水準はEUの中で低い水準にあり、またリトアニア国内の中でも首都ヴィリニユスよりもさらに低い現状にある中で、EU各国への労働人口の流出が大変大きな課題となっている。このことは、裏を返せば人件費が安く抑えることができ、法人税や固定資産税の免除など、ビジネス志向の考え方もリトアニアが持つ資産の一つであると考えれば、企業にとって大きなメリットではないかと感じられた。

【まとめ～今後のリトアニア・パネヴェジス市と連携の可能性について～】

今回の訪問団参加を通してリトアニアという国及びパネヴェジス市という都市との連携の在り方、可能性について自分なりに分析し、考察してみた。人口300万人といえ、日本の都市では大阪市が270万人だが、小国でありながら、国内市場だけに頼ることなく、輸出で積極的に稼ごうとする姿勢、また国際的であることが必要不可欠と考え、様々な政策を積極的に打ち出していることが印象的だった。また魅力の1つは、IT専門の人材育成が盛んであり、人材が豊富であること。加えて人件費も安く、あらゆる関係者からの支援も豊富である。新興国リトアニアは、欧州ビジネスの拠点として注目を集めており、豊橋市においても今回の提携を機に、産官学挙げての人材交流が盛んにおこなわれることに期待するところでもある。人口流出など様々な課題はあるものの、可能性の大きい国、都市であることを肌で感じた。しかし冒頭に述べたように残念ながら、豊橋市民はリトアニアという国を知らない。事実私自身も訪問前はそうであった。

まずはリトアニアという国を知ってもらうための取り組みが必要であると感じた。後日、知人から意外にも、生協にて冷凍パンが販売されていて、大変好評であることを教えてもらった。（写真参照）このよう



＜リトアニアの冷凍パン＞

に我々の生活の中で気づかないところでリトアニア製品、商品が使われていることもあるかもしれない。豊橋市民がリトアニア製品、商品を持ち寄るようなイベントを開催したら面白いかもしれない。

今回めでたくパートナーシティとなったパネヴェジス市との交流も、もちろん大切だが、パネヴェジス市を中心としたリトアニアという国とどう向き合い、交流を深め、連携し、お互いにwin winの関係になれるようにオリンピック・パラリンピック後の取り組みについても早い段階から模索していくことが、より重要ではないかと考える。これから将来的にリトアニアという国、パネヴェジス市という都市と友好関係

が深まるだけでなく、互いの発展につながるような取り組みが積極的に展開されることに大いに期待したい。

最後に今回の訪問に際し、ご尽力いただいた事務局並びに関係者各位に感謝申し上げ、報告とする。

## リトアニア・パネヴェジス市視察に参加して

豊橋市議会議員 中西 光江

### 【友好訪問団の一員として】

豊橋市はリトアニアのホストタウンです。今回、豊橋市とリトアニア・パネヴェジス市と、パートナーシティ協定を締結する目的で、友好訪問団の一員として、議会から参加させていただきました。6月26日～7月2日の日程で、リトアニアの産業、スポーツ、文化、歴史にふれ、貴重な経験を得ることが出来ました。



<パネヴェジス市役所前にて>

パネヴェジス市は、人口約10万人のリトアニア第5の都市であり、豊橋技術科学大学と大学間連携を進めようとしているカウナス工科大学の分校や、農業が盛んであること、バスケットボールのクラブチームや競輪場の存在など、豊橋市と共通する要素があります。

### 【パートナーシティ協定締結へ】

パネヴェジス市を訪問した豊橋市友好訪問団は、市役所内でパートナーシップを記念する銘板お披露目式に参加しました。その後、訪問団が宿泊するホテルで協定締結式が行われました。こちらでは、1日早く到着していた市民訪問団一行と合流し、会場は豊橋市民でとてもにぎやかになりました。



<豊橋市の銘板>



<カンクレスの演奏>

協定締結式オープニングでは、民族衣装を着た音楽学校の生徒さんたちによる、リトアニア伝統楽器「カンクレス」の演奏で歓迎していただきました。とても美しい音色の音楽に魅了されました。リタス ミコラス ラクカウスカス市長と佐原市長とのパートナーシティ協定の署名が行われ、今後、両市相互の交流を図り、両市の発展につなげていくことを誓い合いました。



< 締結式の様子 >

### 【進んでいる福祉・教育施策】

パネヴェジス市では3日間滞在し、中学校（夏休みに入っていて生徒は不在）、農業施設である乳製品工場、スポーツ施設（C I D O A R E N A）、文化施設（民族誌馬博物館）等視察し、リトアニアの人たちの歴史や文化、経済状況などたくさんのことを学ぶことが出来ました。



< 中学校での説明の様子 >

視察に同行してくださったパネヴェジス市の職員さんや、市議会議員さんとの交流も、貴重な経験になりました。その中で市外への若者人口



< C I D O A R E N A >

の流出、農業後継者問題にも触れ、「地元から給料のいい都市に働きに出てしまう若者が多い」「家族が減って、酪農を続けていくには成り手もいなく、苦勞の割には儲からないので続けていくのが困難」といった切実な話も伺えました。訪問した中学校は70人の教職員のうち、

男性の教員はそのうちの10人。男性が少ないのは給料が安いことが理由でした。職種によって格差があり、市民生活はかなり厳しいものがあるようです。消費税率は21%ですが、一方では医療費は無料、19歳

までの教育費は無償であり、出生率は2.0以上とお聞きしました。リトアニアの国の経済や教育、くらしや文化について、さらに深く学んでいきたいと思いました。

**【幅広い分野での国際交流を！】**

今年の10月、パートナーシティ協定を結んだパネヴェジス市との国際交流事業として、豊橋市の中学生の派遣も予定されています。友好訪問団が訪問した中学校の生徒と交流するそうです。子どもたちが世界に目を向け、視野を広げていく経験は国際社会の一員としての成長につながります。平和・友情の架け橋となる事業として、子どもたちの活躍にも期待したいです。

また今年の4月には豊橋市でリトアニア・パラリンピック選手団の事前合宿が行われており、来年の東京五輪・パラリンピックに向け国際交流が盛り上がっていきます。今後他の交流都市も含め幅広い分野での交流を、市民の皆さんと共に行っていただきたいと思います。

## おわりに

豊橋市議会議長 豊田 一雄

今回、パネヴェジス市とのパートナーシティ協定調印の機会に、同市を中心にリトアニア共和国訪問の機会を得たことに感謝します。また、お世話をいただいたコーディネーターの玉木様、事務局の皆様にもお礼申し上げます。ありがとうございました。

リトアニアという国についてはバルト三国の一つであるということ、愛知万博で豊橋市のフレンドシップ国であったという程度の知識しかありませんでした。そして、リトアニアの中でなぜパネヴェジス市が豊橋市のパートナーシティ協定の対象の都市となったのか、さらにパートナーシティ協定により何を目指すのかを知ることが、今回の訪問における私の大きな関心の一つでした。

訪問の中で、リトアニアが農業国であり特に有機栽培に



＜市庁舎前でパネヴェジス市の市長、在リトアニア山崎大使、パネヴェジス市議会議員の皆さんとともに記念撮影＞

### リトアニアのトリビア①

下の写真は、パネヴェジス市庁舎玄関に設置された記念のプレートです。よく見ると、アルファベットで書かれた豊橋の最後に「S」がついています。リトアニア語では男性名詞の語尾には「S」を付けるとのことで、豊橋という名前は男性と判断されたことによるとのことでした。

因みに、パネヴェジス市も男性名詞ということで、最後に「S」がついているそうです。現地の方は「パネヴェジース」と「ス」を小さく発音しているように聞こえました。





よる農作物やハチミツ、チーズなどの生産が多いことを知ることができました。パラリンピック委員会の方々にも面会し2020年のパラリンピックを契機に息長く交流したい意向があることを知りました。またパネヴェジス市では、中学校、乳製品工場などの見学をしたほか、バスケットコート(観客席 5,950 席)、競輪コース(同 4,200 席)、コンサート(同 7,323 席)の多機能アリーナ「CIDO Arena」(2008 年建設、建設費 3,200 万ユーロ)の見学

もできました。いろいろ見学させていただきましたが、この国やこの町の特徴がまだまだよくわかりません。先方も日本や豊橋市の特徴をどれほど理解しているか疑問です。協力の成果を求めるためには相互の理解を深めることが重要なはずです。それは市職員や議員だけではなく、多くの市民がよく理解することで初めて大きな成果につながることであり、利用できるはずと見られます。このことから、まず豊橋市民に対して、リトアニアのことそしてパネヴェジス市のことをしっかり広報していくことが、最も必要であると考えます。今回のレポートには間に合いませんでしたが、パネヴェジス市の概要を説明するプレゼンテーションデータも送っていただけるとのことであり、利用できるはずと見られます。

その上で、期待すべき交流の将来像を描き、計画的にしっかり進めることが重要であると考えます。今後の取り組みに期待します。

#### リトアニアのトリビア②

リトアニアでは年齢によって話す外国語が異なります。リトアニア語は全ての世代の方が話す共通の基本言語です。一定年齢以上の方はロシア語を話しますが、英語は全く話しません。若い世代の多くは英語を話します。

リトアニアは第一次大戦後の 1918 年にロシア帝国から独立、第二次大戦中の 1944 年にソビエト連邦に併合されます。この時代に育った人たちはロシア語を学びました。その後 1990 年に再び独立します。辛い経験をしたソ連時代があったため、これ以後に育った人たちはロシア語は話さず英語を話すようになったようです。